
奇妙な木村さん

蟹男

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

奇妙な木村さん

【Nコード】

N1296BA

【作者名】

蟹男

【あらすじ】

初投稿作品。

奇妙な木村さんと、普通の斉藤さん。
その他数名のお話。

厨二かリア充か、はたまた不思議な子。

毎朝心が折れそうだ。

家から最寄駅まで二十分。

電車で揺られて三十分。

そこから徒歩で三十分。

そこから坂道十分。

計一時間三十分の時間を使って登校し、計一時間三十分の時間を使って下校する。全く、高校二年にして自分の考えは過ちで、入学当初から僕はやらかしていたのに今更気づかされた。

中学時代、進路だ何だと忙しい時期に僕は厨二病を患ってしまった。それが全ての失敗の原因で、全ての答えである。

何も知らない土地＋長い通学路＋坂道×厨二病＝美少女が現れ俺に恋をし、友達が増え、怪異が現れ、それを仲間と一丸となって退治し、友情を育み、愛も育みつつ、高校生活を謳歌出来る。

という式が成り立ってしまっていた。

現実かというと、美少女はいた。友達も出来た。怪異は現れていない。高校行事に丸となって取り組んだ。友情を育んだ。愛は育んでいない。高校生活は謳歌出来ている。である。だが如何せん、通学だけが難点としてあらわになってきた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1296ba/>

奇妙な木村さん

2012年1月3日04時55分発行